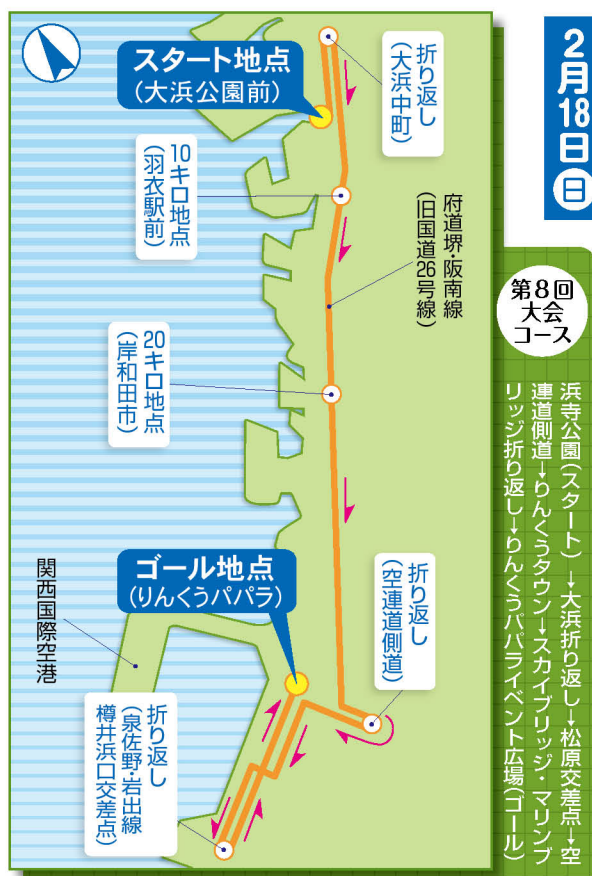


泉州国際市民マラソン 第8回大会

2001年(平成13年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 8th CONVENTIONS



2月18日

天 候: 曇り
気 温: 10℃
参加者数: 2,956人
完走者数: 2,412人
沿道人数: 51万人



マラソン大会のコースはできるだけシンプルで、かつ固定化したいものだが、前回大会の反省点をふまえ、道路事情を考慮して今回大会から変更された。大会前からコース検討委員会を組織し会場への交通アクセスや選手への配慮、フィニッシュ会場、大会運営上の問題を含め、よりよいコース設定を考えた結果の新コースとなった。

前半は前回と同じコースをたどり、後半は関西国際空港を見渡せる臨海道路を通過、スカイブリッジとマリノブリッジを往復するコースとなった。正念場でのゆるやかな上り下りが続くコースは、選手にとって酷なものであるが、力の見せ所でもあり、疲労困憊のなかで健脚を競うタフなコースになった。

フィニッシュ会場はりんくうタウン駅前の広場となり、スタートを見送った応援が再びフィニッシュ会場に余裕をもって行くことができる都市型のマラソンコースである。当日は、りんくうパパライベント広場のフィニッシュ地点は、多くの群衆につつまれ、ゴールへの花道は華やかな声援に渦巻いた。

招待選手には東京国際マラソンで3度の優勝、海外でも大活躍であったアベベ・メコネン(エチオピア)や大塚製薬の杉山愛が注目された。

優勝は谷秀行(NTT西日本大阪)が25kmキロ付近で波越巖(NTT関西)を振り切り、後半は一人旅の独走で初マラソン優勝の栄冠に輝いた。女子は32kmで3人の先頭集団から抜け出した杉山愛(大塚製薬)が、サマンサビューに競り勝って優勝した。

例年のことであるが、地元市町の姉妹提携している都市から選手の招待を行い。それぞれ、市町あがての激励会や応援をくり広げた。



A large crowd of spectators, including children and adults, gathered around a drumming performance. A man in a white and blue outfit is playing a drum, while others play flutes. The background shows a stone wall.

THE 20th ANNIVERSARY 23